

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6 年 7 月 30 日 更新

事務事業名		母子家庭等自立支援事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	2 福祉の健康				所属部	こども部	課長名	衛藤 和博
	施 策	4 子育て支援の充実				所属課	こども未来課	担当者名	内藤 祥子
	施策の柱	15 子育ての経済的負担の軽減				所属班	こども支援班	(内線)	1626
予算科目		会計一般	款 3	項 2	目 1	事業連番 10554	根拠法令	母子及び父子並びに寡婦福祉法	
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	この事業は母子及び父子並びに寡婦福祉法第31条並びに同法施行令第27条に基づき母子家庭自立支援給付金及び父子家庭自立支援給付金を支給する事業である。 高等職業訓練促進給付金は、ひとり親家庭の親の資格取得を促進するため、養成訓練期間中の生活の負担軽減を図り資格取得を容易にすることを目的とする。訓練促進給付金と修了支援給付金があり、支給額は、以下のとおりである。 ・訓練促進給付金（毎月支給：上限4年間） 非課税世帯：月額100,000円、課税世帯：月額70,500円、最終学年は月額40,000円増 ・修了支援給付金（養成訓練終了後） 非課税世帯：50,000円、課税世帯：25,000円 自立支援教育訓練給付金は、ひとり親家庭の親の主体的な能力開発の取組みを支援し、自立の促進を図ることを目的に、本人が訓練給付金の支給対象となる教育訓練講座の受講のために支払った費用の60%相当額（上限40万円）を支給する。 合併して市（福祉事務所設置）になったことにより平成18年3月から市が行うことになった。平成18年2月までは県の実施事業で菊池地域振興局福祉課で取り扱っていた。その時の菊池郡内の状況は7町村で申請者はいなかったと聞いている。近年離婚の増加に伴い母子をめぐり諸状況は変化している。母子家庭等の自立を促進するための総合的な対策が求められている。平成25年度より支給対象が父子家庭にも拡大された。
【業務の流れ】	①給付金支給申請書等の受付、審査 ②支給の決定等伺い ③請求者へ支給可否決定通知書 ④支払業務（支出負担行為、支出命令書、口座振込書等作成）
【主な予算費目】	扶助費（国庫補助3/4）
【意見や要望】	事業を知らない人が多いのではないかと。もっと事業の周知が必要ではないかという意見がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO)		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
事業に関する周知及び相談対応、事業説明や申請受付を行い、支給した。(支給対象者7人)		前年度と同様。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア: 相談件数	件	支給対象者の減に伴う扶助費の減
イ: 高等職業訓練促進給付金・自立支援教育訓練支給者数	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)
児童扶養手当受給者と同様の所得水準にある母子・父子家庭。		→ ア: ひとり親家庭医療費受給者(助成)数
		→ イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)
母子・父子家庭が自立する。		→ ア: 相談件数と給付金支給者の割合
		→ イ:
*③成果指標設定の理由と 6年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
相談者に対し、適切に措置できたことを計ることができる。		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	3年度実績(決算)	4年度実績(決算)	5年度目標(当初予算)	5年度実績(決算)	6年度目標(当初予算)	7年度予定	8年度見込	9年度見込
① 活動指標	ア 件		5	10	16	11	20	20	20	20
	イ 人		5	9	16	11	20	20	20	20
② 対象指標	ア 人		725	728	800	725	800	800	800	800
	イ									
③ 成果指標	ア %		100	90	100	100	100	100	100	100
	イ									
投 入 費 用	財 源	国庫支出金	千円	3,643	7,715	12,733	7,176	8,724	4,800	4,800
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	1,340	1,606	4,245	3,132	2,908	1,600	1,600
	(A) 事業費計		千円	4,983	9,321	16,978	10,308	11,632	6,400	6,400
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
			千円							
人 件 費	正 規 職 員 従 事 人 数		人	2	2	4	2	4	4	4
		延べ業務時間	時間	56	56	40	55	40	40	40
	(B) 人件費計		千円	218	213	159	200	159	159	159
トータルコスト(A)+(B)			千円	5,201	9,534	17,137	10,508	11,791	6,559	6,559

事務事業名	母子家庭等自立支援事業	所属部	こども部	所属課	こども未来課
-------	-------------	-----	------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は5年度の後評価、ただし複数年度事業は5年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】
	② 6年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 相談者の養成機関への合格による入学者の増。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 給付金を支給する事業のためひとり親家庭の経済的支援と就業・自立支援に結びつく。事業を知らない人が多いことも考えられ、周知が必要である。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 給付金を支給する事業は他には見当たらない。ひとり親家庭の経済的支援と就業・自立支援に結びつくと考えられる
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 相談件数の増加から、事業費の増加が見込まれる。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事前相談・受付・審査・支給事務に職員及び相談員が対応した。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 母子及び父子並びに寡婦福祉法第31条並びに同法施行令第27条に基づき母子家庭自立支援給付金及び父子家庭自立支援給付金を支給する事業とし合志市母子家庭等自立支援教育訓練給付事業実施要綱及び合志市母子家庭等高等職業訓練促進給付事業実施要綱を制定し基準どおりに実施している。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 国の制度であり、移行はできない。

3 評価結果の総括（CHECK）

平成20年度までは実績がなかったが、平成21年度から制度拡充もあり申請件数が増加し、今年度の支給事務も毎月7件行っている。資格取得は、ひとり親家庭の自立に直接繋がるため事業促進する必要がある。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												